



FACE DUO



認知症疾患医療センターとして、教育と地域をつなぐ新たな取り組み

大阪府茨木市にある藍野病院は、令和8年4月1日より「大阪府認知症疾患医療センター」に認定されました。鑑別診断や急性期医療、専門医療相談に加え、保健医療・介護関係者への研修や地域啓発を通じ、地域生活を支える体制づくりを目的としています。

その中で同院が特に重視してきたのが、認知症ケアに関する「教育の質」でした。

“忙しい現場でもすぐ使える” 1ヶ月で70回、参加率88%を達成

- 藍野病院におけるVR教育ツール「FACEDUO」の活用事例 -

藍野病院では、認知症治療病棟に加え、身体合併症や精神症状を伴う認知症の方への対応を、一般病棟でも行っています。地域と連携し支える体制づくりを進める一方、教育面では次の課題がありました。

- ・講義中心では症状の背景まで伝えにくい
- ・多職種（外国人スタッフ含む）への教育が必要
- ・忙しい現場で長時間の研修確保が難しい

スタッフからは「基本的な対応だと思い、自分のペースで接していたことに気づいた」という声もあり、理解の質向上が課題でした。

「体験」で伝わるFACEDUOの強み

認知症のご本人と介護者の視点をVRで体験できる教育ツールです。

- ・視点を切り替えられ分かりやすい
- ・職種を問わず伝わる
- ・15分で完結し、操作が簡単で短期プランも利用可能

これらが導入の決め手となりました。



1か月で70回、
参加率88%を達成



導入後、17日間で70回（1回30分）の研修を実施。一度のトラブルもなく実施できました。看護部・研修担当者の連携により、勤務状況を見ながら参加者を調整することで、職員537名中470名が体験し、参加率は約88%に達しました。

FACEDUOだから実現できた教育効果の高さ「気づきから行動変容へ」

スタッフの気づき

研修後のアンケートでは、多くのスタッフが意識の変化を感じています。

「認知症の方の気持ちを、改めて考えるようになった」
「見えている世界が自分たちと違うと実感した」
「家族の戸惑いや思いも理解できた」

現場で役立っていること・行動変容

- ✓ 自分のペースではなく、認知症の方の気持ちを考えて対応するようになった
- ✓ 症状で片づけず、否定せず、その方の世界や気持ちを尊重して関わるよう意識するようになった
- ✓ 急がせず、時間をかけて対応するようになった

知識の理解に留まらず、具体的な行動変化が生まれている点が、大きな成果と言えます。

また、FACEDUOは映像中心のため、看護師、介護職などの職種の違いも影響なく、外国人スタッフで日本語理解度に差があっても活用できていた点も、職員から評価されました。



地域活動でも活用

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の施行に伴い、地域活動として、地域の方々へ認知症予防の啓発を行うとともに、認知症に理解のある地域づくりを進めていくことを目的とした取り組みを開催しています。VR体験を通じて「もし自分だったら」「家族だったら」と考えるきっかけを提供し、認知症をより身近なもの、自分ごととして捉えてもらうことができました。



教育課題を抱える医療機関の皆さまへ

「映像の力は本当に強いと感じました。」

「職種を問わず、きちんと“理解できる”教育ができたと思います」

FACEDUOは、忙しい現場でも実施可能で、意識や行動の変化につながりました。

- ◎ 多職種教育に課題を感じている
- ◎ 効率的で実践的な研修を探している
- ◎ 地域啓発まで視野に入れたい

そのような医療機関にとって、FACEDUOは有効な選択肢の一つとなるでしょう。



短期利用プラン

認知症・フレイル関連イベント・導入に向けたトライアル等に活用

- FACEDUOの全てのコンテンツが1か月利用*できるプランです。
- 豊富なコンテンツを1か月間制限なしでご利用頂けます。

99,000円/月 (消費税込み、送料込み)

詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売  Otsuka

開発・製造

JOLLY GOOD!

2026年5月作成
FD2604010